



オリブ通信

2014年
3月号
2014.
3.15発行
第149号

<http://www.ne.jp/asahi/olive/kusatsu>

まちづくりセンター国際文化交流会

2月8日(土)



「外国人から見た日本・草津の町」のテーマで、オリブで学習している外国人の方たちの意見・感想を今後の町づくりに生かし、また、まちづくりセンターを気持ちよく利用していただけるようにとの趣旨で国際文化交流会(まちづくりセンター施設部会主催)が開催されました。

第1部は外国人によるスピーチです。勉強中の日本語を使って、ベトナム出身のブー・バン・キーさんは「日本は安全できれいな国だ」、ペルー出身の櫻井良郎さんは「草津は SHIPS やオリブがあり、町センは駅から近く日本語学習の環境に恵まれありがたい」、インドネシア出身のバエヌル・シディックさんは「イスラム教徒であるので、日本に来て異文化を感じている」、中国出身の王俊娜さんは「日本のお辞儀文化やゴミの分類などが板についてきた。また、滋賀はボランティア活動が盛んで、沖島でのゴミ拾いを体験した」、韓国出身の姜正淑さんは「日本人の控えめの美德は外国人には誤解されやすい、また、美術館で見る日本画は細かいところまで描きされていて日本人の性格が表れている」など、みなさん、自分の言葉でしっかり発表されました。発表予定だった尹佳さんはインフルエンザで欠席され残念でした。

第2部は交流会に参加して下さった約30名の皆様と発表者との異文化交流座談会です。二組に分かれ草津のあおばな煎餅とお茶をいただきながら和やかな雰囲気の中で話が弾みました。母国のお正月の様子を話したり、将来母国で日本語の教師になるため大学院を目指したり、母国で通訳になりたいと、日本語能力試験N2を目指して頑張っている人などの話に、日本人参加者の皆さんも、興味津々で聞いてくださり、激励していただきました。



後日、運営協議会の席上、「外国人と日本語で初めて話をして楽しかった」と言ってくさる方、オリブの活動を初めて知って感心してくさる方もいて、オリブのPRにもなったと思います。発表者の方たちも日本の地域の方々の前で、スピーチをしたり、座談会で話し合えたりしたことは、貴重な体験であったと喜んでいただけました。オリブのスタッフの方も5、6人参加して下さり、発表者の指導・応援などでご協力いただき本当にありがとうございました。(レポート 田中一美)

中川先生のへんで「日本語」

(44)

失礼の話

スーパーやコンビニで買い物の支払いをしようとする時、「〇〇カードを持っているか」と聞かれる。「持っていない」と答えると、「失礼いたしました」と返ってくる。別に失礼な思いをしたわけではないが、こう言われると、次にどう言おうかと迷ってしまう。

会社などへ電話をかけ、取り次いでもらうと、「失礼ですが」と言われる。「あうんの呼吸」で、「中川と申します」などと答えなければならぬ。

本来「失礼します/しました」は、相手に不適切な思いをさせた場合に詫げる謝罪表現のはずである。もはや上記のようになってしまつては、「失礼します」が様々な機能を持つことになり、学習者には習得が難しくなってくる。

日本語教科書にも「失礼します」は載っている。しかし「不適切な行為」をした時、「会話の切り出し」であったり、「現場からの辞去」をしたりする場面がほとんどで、多様な機能に気付かせる指導はなされていない。

日本語学習者には、殊に海外の学習者には、教科書の表現を、いわば「刷り込み」としてそのまま覚えて使おうとする傾向が強い。

先日コンビニで支払いをしようとする時、非母語話者らしいアルバイトさんが、「カードを持っているか」聞いてきた。「持っていない」と答えると、「申し訳ございません」と来た。こちらは完全な謝罪表現であるが、「失礼いたしました」も謝罪表現であると覚えていたために起こった、ミス・コミュニケーションと考えられよう。

研究室を訪ねてくる学生を観察してみると、日本人学生の場合には、「失礼します」で切り出し、留学生の場合は、「先生、こんにちは」で切り出すことが多いことに気付く。

日本語教育で大切なことは、うわべだけの意味を与えるのではなく、様々な場面の中で、実際に使用する機会を提供することである。

というわけで、今日はこのへんで失礼します。

京都外国語大学 日本語学科教授 中川良雄



参加した外国人の方より・・・

みなさんが聞いてくれて嬉しかったけど、若い人がもっと来てくれたら良かったなと思いました。なぜかという、自分の国にいるときは気づかないけれど、よその国の人が出た時いろんなことに気づいて、人に対して優しさが出たり、外国人たちが日本で暮らしやすくなったりするかな、と思います。外国人たちもいい学びができて、自分の国に戻ったとき、いいことが伝えられると思います。日本の国には、いいところがいっぱいあると思うので、日本に長くいると、わかったり感じたりすることができます。

王 俊娜さん



姜 正淑さん

今回の交流会に参加し楽しかったです。自分が日本で暮らしてきた感想をたくさんの方の前でお話しするのを緊張しましたが、いい経験になりました。韓国からいらっしゃった姜さんには非常に感心しました。長いこと日本に住んでいらっしゃるだけあって、日本語がとても上手です。今回の試みのように外国人の意見を聞いて、街の環境を改善しようという日本のまちづくりの考え方にも感心しました。外国人にとっては、大事にしているという感じがして、非常に有り難いと思いました。スピーチが終わった後の雑談の時には、それぞれの国の文化や習慣の違いを、お互いに紹介しあうことにより、他国の文化や習慣をより良く理解できて、面白かったです。また、このような機会があったら参加したいと思います。

日本語で初めてのスピーチではないのに、すごく緊張しました。その時、勇気を出して滑らないように話すつもりでしたが、滑り言葉も出しちゃった。でも、このスピーチのおかげで、少しずつ会話するのに自信がもっている感じです。とても嬉しくて良かったです。有難う御座いました。



バエヌル・シディックさん



日本語を教えています。～新米教師日記～⑥



SHIPS には日本語指導員が 2 人いて、もうひとりの方はオリーブでもご活躍の川寄先生です。

ある日の授業で、私のクラスの学習者・タイ人の D さんが、川寄先生がいらっしゃる隣の教室を指さして、「スズキせんせいは…」と言いました。

カワサキとスズキは全然違うのに、日本人はスズキが多いから間違えたのかな？と考えていたら、いつもバイクに乗っている C さんが、「ああ、スズキ、カワサキ、バイク？」と言いました。

C さんは「そうです。スズキ、カワサキ、ホンダ…タイはバイクがたくさんあります。覚えました。」と、説明してくれました。

なるほど～。外国人の名前は覚えにくいです。

だから、馴染みのある物の名前と関連付けて覚えているんだ、おもしろいなあと思いました。

学習者の工夫と苦勞を同時に見た気分になったある日の授業でありました。



(小島 裕子)

KIFA 新春のつどい 招待レポート

レポート 豊村



1/19(日)、中西さんと二人でまちづくりセンターで開催された KIFA の「新春のつどい」に行ってきました。一部がインターナショナル・ブュッフェ、二部がインターナショナル・スクエアという 2 部構成になっていました。

インターナショナル・ブュッフェはその言葉どおり、日本料理も含めた各国の料理を参加の皆さんとワイワイ交流しながら食べるというものです。もちろん、在住外国人の方もたくさん参加されていました。

テーブルにはフィリピン、ブラジル、中国、ベトナム、インド、韓国など各国の料理やデザートがずらりと並びました。ちなみに韓国のチヂミはオリーブの姜さんが作られたもので、ご本人もいらっしゃいましたよ。

さて午後からの二部では、さまざまなイベントが行われました。ダンス、けん玉、民族衣装体験、折り紙、カルタ取り、福笑いなど、部屋をそれぞれに割り当てて同時進行で催されました。



この中で興味深かったのはハンガリーダンスです。結婚式で行われるもので、参加者がお金を出して、新婚の花嫁と踊るというもの。そのお金の集め方がおもしろく、(料理に使う)大きなボウルを持った人が参加者の間を回って希望者はそのボウルにお金を入れて順番に花嫁と踊るというもの。

お金はお祝いに相当するのでしょうか。オチがあって、最後は花婿が花嫁を抱きかかえて退場します。「誰と踊っても、やはり私はあなたのもの」というところでしょうか。プログラムの工夫もされていて、楽しいひと時でした。

ただいま！復帰組です！



オリーブへ復帰することになった動機

2008年の3月末に一旦オリーブを退会し、2013年10月に復帰しました。約5年半オリーブを離れていたことになりませんが、その間栗東から南草津へ引っ越ししたり、自分自身も韓国語を勉強したり、仕事で転勤があったりして環境も少し変化しました。残業が多いので毎日忙しく過ごしており、振り返っても5年半というのはあっという間でした。

オリーブに復帰したキッカケは転勤後約1年半が過ぎ、職場にも慣れてきて少し心に余裕ができたところに「神のお告げ」というべきかフッとオリーブでの思い出がよみがえって来ました。日本語教室を通じて得た楽しかった思い出は心のどこかに残っていたのでしょうか。私が以前参加していたころは、ブラジル、ペルーからの労働者が最も多いときで、さらに米、豪、英からALT(高校の英語教師)も参加しており、先生、生徒の人数も現在の倍近くいたような気がします。しかし、5年半の間に社会情勢の変化もあって滋賀県のブラジル、ペルーの労働者たちは激減したように思います。代わって昨今のアジア情勢も関係してオリーブの生徒さんもアジアの方が中心になっています。私自身も若いころの欧米志向から我々日本人のルーツである中国大陸や朝鮮半島には年々関心が強くなっており、またオリーブに参加して外国人の方と楽しい国際交流ができることを楽しみにしています。(小川良介)





先月の活動(2月)

日本語教室 2/1, 8(M), 15, 22 (4回)
 BNN 会議、会場下見 2/23 (日) (納谷、豊村、吉田)
 まちセン運営協議会施設部会主催
 『国際文化交流会』 2/8 (土)
 (田中一、田中三、生徒5名:スピーチ&座談会)
 まちセン周年イベントお土産作り 2/10 (月) (田中一)
 まちセン運営協議会全体会 2/13 (木) (田中一)
 まちセン周年イベントお土産作り 2/17 (月) (田中一)
 KIFA 理事会 2/17 (月) (恩地)



今月の活動予定(3月)

日本語教室 3/1(M), 8, 15, 29 (4回)
 BNN 会議 3/9 (日) (納谷、佐野)
 まちセン周年イベント 3/8(土)
 (お土産作り:田中一、パネル作成:小春)
 BNN 外国人によるスピーチ大会 (草津アマカホール)
 3/16 (日)
 (スタッフ:納谷、重松、豊村、佐野、吉田)
 まちセン運営協議会全体会 3/20(木) (田中一)

- 日本語教室の(M)は定例ミーティング
- ()内は参加者、または参加予定者。敬称略



お知らせ

《訂正お詫び》

2月号のお知らせで、大阪 YWCA 専門学校
 主催講座を、
 2/22(水) 国際社会と日本
 としていましたが、正しくは、
 1/22(水)
 の間違いでした。お詫びいたします。

参加人数 (2月)

	2/1	2/8	2/15	2/22
先生	14人	13人	15人	18人
生徒	16人	14人	18人	19人

《オリーブ今後の予定》

総会: 5月18日(日) AM 10~12時
 草津まちづくりセンターにて

(総会后、懇親会:中国料理888はちみつ予定)

※ 原則的に全員出席してください。

※ 欠席の場合は委任状を提出して下さい。

20周年記念パーティ: 7月12日(土) 予定

生徒によるオリーブ内の発表会他、20周年と
 なる企画を検討しています!

ぜひ、アイデアを!



合格おめでとう!!

N2合格

サクライ ヨシロウさん
 (ペルー)



私は、日本語能力試験二級を受けたのは初めてではありません。実は二回目です。前に読解の点数が足りなかったため不合格になりました。ただ、あの時から、自分の弱点を認識して、ここはまだ足りないなと思ったらそれを主に練習するようになりました。だから、合格するには自分の弱点を克服する必要があると思います。

(桜井 良郎)

会員の動き (2月)

<入会> なし

<退会> なし

<賛助会員> なし

編集後記

3月になりました。年度の終わりの3月。仕事柄「もうすぐ1年が終わる~!!」と、良く言えば「達成感」、悪く言えば「(?)」「解放感」が、1日1日感じられる……私にとってはそんな月です。しかし、カウントダウンをしつつも、新たに始まる4月に怯えゆっくり時間が進んで欲しいと思う気持ちもあり。どちらかと言えば、新しいことにワクワクするというよりは「あ~、またイチからやらなきゃいけない~」という面倒くさい性格が勝ってしまいます。皆さんはいかがですか?

さて、オリーブも3月が締め月です。オリーブは3月と4月の大きな境はないように思いますが、転勤、就職、新大学生等、メンバーの入れ替わりは若干あるように思います。マンネン先生不足のオリーブに、新しいメンバーを期待して……!

(こはる)

